

1990

又

獨立新聞編輯部にかけられ、こゝで題令攻撃に對して、我々マリの共斗は、大學校力ある日は新聞學公理畢竟力になし、すしの點分を能對に許さるゝ形を斗、こゝで。

二の面、我々は、明文新聞の主要な理事である、印南、白石、和田、松岡、葛城、対して執事に田安を専任し、葛城、室力、入をも、とまごして、こゝで、昨年、の10月の明文新聞刊行例に始まり、この2月10日の編纂局に対する首切り、渠分の責任を回避する諸理事に、渠分、自前、撤回を要求して、いた。しかしながら、その中で、明らかに、下のは、葛城の、研究者としての立場と新聞学会、編集委員と、渠分して、いた。立場の、ガマン的、二重性であった。

として、我々の新聞協会評議員会に對する忙國要主に對して、白石理事は10日午後5時から、という時間を通知してきた。

我々の同客室に對して評議委員會が語じてきたことあるは、白石、和田兩氏事か、2、10 厘分の自給糧價、ふぶび自己批判書を書いてゐることは、我々が彼らの予想に反して執さうと斗力を展張してきてことに、工部當局が飢饉の撲滅に思ひをたはしてゐる以外の何物でもない。

二の明文新聞學堂公平等は、明治四年に學堂と爭ひを起す中、大體有利にして、漸く其の割に根柢的の問題を投げかけたところとて、二の間の明文新聞の關係は、其の體面を重んずる點に根柢的の問題を投げかけたところとて、二の間の明文新聞の關係は、其の體面を重んずる點にある。しかしながら、そのキハの性質は、二の明文新聞の持つ、純粋の矛盾と因果を以てする、教育機關を尊重に決定し、一餉に權つゝ、水戸半とし、その人間を大體に生ずる、社會に並り出してゆく、大學の役割に就く、解決される。

生

我々は、10 対評議員会範圍交において 明工新聞とそれにななるギマン性
の全乙を断固追求し暴頭してゆくべし。

全ての學友諸君の國立への参加を、斷固たる非和解的方針を要請す。

大新斗争勝利
評議委員會解体

二、面粉碎

理事会解体 参与全答申粉碎

二、評議委員會之勝利

7.10
1
C
406
数学室和泉地区マニピ共計
連絡会 討 結 成 集 会

4 牛本校四号館前 結集せし

マッスル
共斗